

自然を たおわて

春近し



2月、3月は、観梅の季節であるが明和町には、梅が少ない。日本を代表する花木として古くから親しまれてきたソメイヨシノはあちこちにある。自然とは不思議なもので、地球のすべての生物が、春の声を聞くと元気になる。まもなく明和中学校の子どもたちも、サッカーのユニホームに身を包み、桜の下を駆けめぐる姿が見られるだろう。部活で汗を流すこどもたちを見ていると、老体にも血がたぎる思いである。気になる校庭の桜も、子どもたちを声援しようと開花にそなえて、可愛いつぼみを蓄えつつある。「春近し」を感じる。子どもたちの大きな声が、大空に響きわたるのが待ちどかしい。

写真・文 山平 薫

編集後記

今月号から新たに紙面をリニューアルしました。見慣れたコーナーが移動してしまつて、ご不便をおかけしますがよろしくお願ひいたします。これからもスタッフ一同より見やすい紙面づくりに頑張ります。(A)

今回「ごみ減量化」の特集を組みました。私も分別を徹底し、ごみを3分の1減らすことができました。皆さんがこの特集をきっかけにごみの減量を意識していただけたら幸いです。(G)

立春をすぎても寒さが身にしみますが「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく……」と、昔覚えた枕草子の一節が思い起こされ、春の訪れを心待ちにしている今日このごろです。(S)

●広報めいわは、自然保護のため再生紙と大豆油インキを使用し作成しています。